

□ 次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。解答に字数の指定がある場合は、句読点やかっこなどの記号も字数として数えます。(設問の都合上、原文の表記を一部改めたところがあります。)

昼間渡る鳥たちは、太陽の位置を体内時計で補正しながら渡っているらしい。a シュウイに等間隔に細い隙間のある円形の*ケージに入れられたホシムクドリは、太陽の光が入ってくる方向に合わせて、向かうべき方向を定める。太陽は日中、東の地平線から西の地平線まで動いているように見えるが、鳥たちは太陽のその動きに合わせて向かうべき方向を補正する。

また、鏡を使ってケージの隙間から入ってくる光の角度を変えてしまうと、鳥たちは変えられた角度に従って向かうべき方向を変化させる。①曇りの日を想定してケージを薄い布などでおい、隙間から入ってくる光を分散させてしまうと、鳥たちは向かうべき方向を定められなくなってしまう。

夜間には星座を利用する。プラネタリウム内のケージに入れられた北米のルリノジコは、春や秋、野生の鳥が②向かうべき方向に向かつてあわただしく動きまわる。春、秋ともに、北極星を中心として約三十五度以内にある大熊座、小熊座、龍座、ケフェウス座、カシオペア座などからなる北の空をたよりに方向を定める。プラネタリウム内で*人為的にほかの星を北極星に見立て星座をトウツし出すと、鳥は人為的な極星にもとづいて定位する。

やはりルリノジコをもちいた研究だが、おもしろいことに、星による定位の能力は、生後数か月のうちに天体あるいはプラネタリウム内の星空を見ることがによって獲得される。幼いころに③その経験をもちかない鳥は、成長してからいくら星空を見せても定位することができない。

鳥たちは、地磁気も渡る方向を定める重要な手がかりにしているらしい。地球上に存在する磁場は、たしかにどこでも鳥たちに、方向を与えることのできる可能性をもっている。地磁気をカンチする場所は、鳥の頭や首の部分にあると考えられている。

鳥によっては、地形や季節風、日没の位置、においなども定位に利用しているようだ。

A、鳥たちは、ある時間、特定の方向に飛んでから、別の方向に向きを変え、またある時間飛んだのち目的地に到着する、といった時間と距離に関するプログラムを遺伝的にもっているらしい。この方法によれば、一方だけに進む場合には、ある時間、特定の方向に飛べば目的地に到達することになる。

B、風向きや風力によって、ある時間飛んでも同じ場所に到着するとは限らない。また、飛ぶ能力には個体差もある。C、ぴつたり同じ場所に到達する必要がある場合には、有効な方法として機能することになるのだろう。

若鳥が生まれてはじめて旅をするのに、迷わずに越冬地まで到達できるのは、④この仕組みが関係しているようだ。もっとも、群れで渡る鳥の場合には、ほかの個体についていくことで、若鳥でも目的地までまよわず到達できている可能性が高い。

D 鳥たちは、時と状況により、異なるいくつかの方法を組み合わせて定位し、渡っているのではないかと思われる。またもちろん鳥の種やグループによって、主に何を利用しているのかは違っているものと思われる。

(樋口広芳『鳥たちの旅』)

*ケージ…檻。鳥獣を閉じ込めておくもの。

*人為的…自然のままではなく、人の手が加わっているさま。

問1 線a~dのカタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなで書きなさい。

Diagram with boxes labeled a, b, c, d and hiragana characters (れ) and (し) for transcription.

問2 線A~Dに入る最も適切なことばを、次のア~エからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ア もちろん イ だが ウ おそらく エ 一方

Diagram with boxes labeled A, B, C, D for question 2.

問3 線①「曇りの日を想定してケージを薄い布などでおい、隙間から入ってくる光を分散させてしまうと、鳥たちは向かうべき方向を定められなくなってしまう。」とありますが、これは鳥たちにどんな性質があるからですか。本文中のことばを使って四十文字以内で答えなさい。

Grid for writing the answer to question 3.

問4 線②「向かうべき方向」とありますが、これは主として何に合わせて定めていますか。この段落から漢字三字で抜き出しなさい。

Form for writing the answer to question 4.

問5 線③「その経験」とありますが、どのようなことを指すのですか。本文中から十字以内で抜き出しなさい。

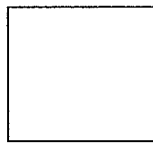
Form for writing the answer to question 5.

問6 線④「この仕組み」とあるが、何のことですか。本文中のことばを十五字以内で抜き出しなさい。

Form for writing the answer to question 6.

問7 本文の内容と合致するものを次のア〜エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 鳥たちは曇りの日や雨の日は空を飛ぶことができない。
- イ 鳥たちは生まれつき目的地の場所までの飛ぶ時間をはかることができる。
- ウ 若い鳥は群れについて移動しないと目的地を見失ってしまう。
- エ 鳥たちの旅は自然のさまざまな現象によって変化し、目的地もまた変化する。



【二】 次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。解答に字数の指定がある場合は、句読点やかっこなどの記号も字数として数えます。(設問の都合上、原文の表記を一部改めたところがあります。)

私はまず手始めに、自分の好きな本の一節を書き写してみた。『アーブル昆虫記』のフンコロガシの章。『太陽の戦士』の出だしのところ。『アンデルセン童話集』から『ヒナギク』と『赤いくつ』。アン・シャリーが朗読する詩。『恐竜図鑑』のプラテノドンの項。『世界のお菓子』、トライフルとマカロンの作り方。……

想像したよりずっとじれったい①作業だった。たとえ自分が考えた言葉ではないにしても、それらが私の指先を擦り抜けて目の前に現れた途端、いとおいしい気持ちに満たされた。

②言葉たちはみんな私の味方だ。あやふやなもの、わくわくするもの、臆病なモノ、何でもすべて形に変えてくれる。ブルーブラックのインクで縁取られた、言葉という形に。

そしてふと気がついて手を休めると、ノート一面びっしり文字で埋めつくされている。ついさっきまでただの白い紙だったページに、意味が与えられている。しかもそれを授けたのは自分自身なのだ。

私は疲労感と③優越感の両方に浸りながらページを [A] た。まるで世界の隠された法則を、手に入れたかのような気分だった。

「書き物」に対する態度が、④他の大人と唯一違っていたのがキリコさんだった。干渉しない点については同じだが、彼女は明らかにこの作業を、勉強とは違う種類のものとして認めていた。敬意さえ払っていたと言ってもいい。

子供部屋やダイニングテーブルで作業に熱中している私を見つけると、一瞬キリコさんは立ち止まり、姿勢をただし、邪魔しないように注意を払いながら通り過ぎた。あるいはおやつを運んでくる時は、不用意にノートの中身に目をやって盗み見していると誤解されないよう、気を使っているのが分かった。自分の手元に視線を落とし、一切声は掛けず、ノートからできるだけ遠いところにジュースを置いた。コップについた水滴で、ページが濡れてはいけなそう思ったからだろう。

やがて私は他人の文章を書き写すだけでは満足できなくなり、作文とも日記ともお話しともつかないものを書き付けるようになった。クラスメイト全員の人物評と先生の悪口、一週間の食事メニュー、百万円あったら買いたい品物のリスト、テレビ漫画の予想ストーリー、自分の生い立ち・みなしご編、無人島への架空の旅行記。とにかく、ありとあらゆるものだった。

今日は何も書くことがないという日は、一日もなかった。キャップ [B] さえ外せば、万年筆はいつでも忠実に働いた。だから初めてインクが切れた時は、うろたえた。

「どうしよう、万年筆が壊れちゃった」
私は叫び声を上げた。

「もう壊しちゃったの？ せっかくなの？ パパのお土産なのに。新しいのは買いませんからね。壊したあなたが悪いんです」

新しいのは買いませんからね——これが母の口癖であり、得意の台詞だった。私は自分の不注意を呪い⑤絶望して泣いた。

「大丈夫。インクが切れただけなんだから、補充すれば元通りよ」
救ってくれたのは、やはりキリコさんだった。

「スイスのインクなのよ。パパがまたスイスへ行くまで待たなきゃならないの？」

「いいえ。街の文具屋さんへ行けば、必ず売っています」

必ずという言葉を強調するように、キリコさんは大きくうなずいた。キリコさんは正しかった。私は万年筆を壊してなどいなかった。約束どおり彼女は新しいインクを買ってきて、補充してくれた。ケースの裏に書いてある説明書は外国語だったから、二人とも読めなかったけれど、彼女は慎重に方向を見定め、※崇高な儀式の仕上げをするように、万年筆の奥にインクを押し込めた。

「ほらね」

それがよみがえったのを確かめると、キリコさんは [B] そうに唇をなめた。一層唇が光って見えた。

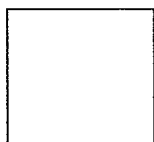
(小川洋子 『キリコさんの失敗』)

※崇高……けだかくて、とうといこと。

問1 一線①「作業」とはどんなことですか。本文中のことは使って二十字以内で答えなさい。

問2 一線②「言葉たちはみんな私の味方だ。」とありますが、この部分の説明として最も適切なものを次のア〜エから選び、記号で答えなさい。

- ア ペンでノートに書き付けた途端、とてもいとおしいものになるから。
- イ どんなものでも自分の思い通りに表現することができるから。
- ウ どんなものでもすべてインクで縁取られた言葉という形に変えてくれるから。
- エ 自分の好きなものや気持ちをいくらでも書き付けることができるから。



問3 一線③「優越感」について。

I どんなことに「優越感」を感じたのですか。そのことを説明した次の文の(ア) (イ) に入ることをアは四字、イは六字でそれぞれ答えなさい。

- ・ついさっきまでただの白い紙だったページに、(ア) が (イ) ことができるということ。

II この「優越感」がどんな気持ちだったかを言いかえている部分を本文中から探し、初めと終わりの五字を答えなさい。

イ	ア
初め	終わり

問4 □A □Bに入ることばとして最も適切なものを、次のア～エからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- A ア たたきつけ
- B ア 不安
- エ たぐりよせ
- イ 破り捨て
- イ 得意
- ウ 意外
- ウ なでつけ
- エ 頑固

A	B

問5 ー線④「他の大人と唯一違っていた」とありますが、その違いとはどんなことですか。本文中のことばを使って四十五字以内で答えなさい。

問6 ー線⑤「絶望して泣いた」のはなぜですか。そのことを説明した次の文の()に入ることばを、これより後の本文中から抜き出しなさい。

() しまったと思ひ込んだから。

問7 ー線 a・b「さえ」の用法と同じものを含む文を、次のア～エからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア 子どもにさへ分かる。あなたにわからないわけがない。
 イ 風が強く吹いている。雨さえ降ってきた。
 ウ 無事に帰って来さえすればいい。
 エ 親友にさえ会わないのだ。まして彼には会わない。

a	b

問8 本文全体を通してわかる登場人物の説明としてもっとも適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- A 私の母は私がものを書くことにあまり同情的ではなく、大人としての目線で私を見ている。
- イ キリコさんは私のことを友達のように思って二人の距離を縮めるために努力している。
- ウ 私は書くことが大好きではあるが、人付き合いがうまくないため、わがままである。
- エ 私と私の母はあまり相性がよくないので、お互いの距離を感じて避け合っている。

問9 次の①～④の文の二重線のことばは、下のア～エのどのことばにかかり(つながら)ますか。それぞれ記号で答えなさい。

- ① 春にアそこにイ行けばウ食物をエ確保できる。
- ② そのために豊富なア食物をイ必要とウしている。
- ③ 北方まで行けば、ア確実にイ子育てをウ行うことがエできる。

①	②	③

問10 次の①～④のことわざの意味を、あとのア～エからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ① 青は藍より出でて藍より青し
- ② 一寸の虫にも五分の魂
- ③ 三つ子の魂百まで
- ④ 百聞は一見に如かず

ア 小さな小さく弱い虫にもそれなりの意地があるからばかにはできない。
 イ 人から何回も聞くよりは一度自分の目で見た方が確かだ。
 ウ 弟子が師よりも優れる。
 エ 幼い時の性質は年を取っても変わらない。

①	②	③	④